

ユニット名: 茜棟・東雲棟

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念「共に歩む」を常に心におき、事業所、各職員共にそれぞれ寄り添いながら、日々を過ごさせて頂いています。 | 法人理念、コンセプトについては玄関、各ユニット事務所に掲示して共有に努めている。また、月1回の全体会議で唱和して実践に繋げている。そうした中、4名のインドネシア人特定技能実習生に日本の食文化の指導を行っている。家族には利用契約時に理念、コンセプトについて説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 行事の際には、地域ボランティアの皆様のご協力を頂き、大変楽しい時間を過ごさせて頂いておりましたが、現在は、コロナの為に中々交流が出来ていない現状です。 | 開設以来、区費を納め地域の一員として活動している。コロナ禍で地区の行事が殆ど中止になっているが、運営推進会議を通じて地域との連携を図って行きたいと思っている。また、フラダンス、歌、楽器演奏等のボランティアの来訪も再開されていないが、各ボランティアグループと連絡を取り再開する予定である。そうした中、介護専門学校の職場実習は継続しており、約1週間～1カ月の間、介護全般で利用者との交流を体験している。今年、実習生のうち1名が当ホームに就職した。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通し、法人、地域で行われる認知症に関する講習会の案内、パンフレットの配布等で参加への紹介を行っている。会議は今期より対面での会議を再開している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回偶数月に会議を行っている。施設の様子が分かる新聞、近況情報を共有している。また、他グループホームの取り組みも教えて頂いて、良い取り組みがあれば参考にさせて頂くようにしている。 | 運営推進会議は、書面での開催が続いていたが、現在は区長、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、ホーム関係者が出席して偶数月に開催している。利用者状況、行事や事故ヒヤリハット、研修の報告及び意見交換等を行っている。なお、家族には「さとし便り」を配布してホームの状況を知らせている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ご担当者様とは適時連絡をとりながら、取り組みの状況報告をしている。介護相談員の訪設の際は、意見交換をしています。 | 市介護保険課には事故ヒヤリハット報告等を速やかに行っている。市の介護相談員が2ヶ月に1回来訪して利用者と交流している。終了後には職員とも面談するとともに気付いた事柄の報告を頂いて、支援に役立っている。要介護認定更新調査は市の調査員が来訪し、管理者とケアマネージャーが対応しているが、家族が立ち会われることもある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 常に高い意識を持ちケアにあたっています。マニュアルを常備し、閲覧できる体制を整え、職員は何時でも確認ができます。安全確保の為に玄関は施錠していますが、契約時の説明、面会時にてご家族様からの了承を頂いております。 | 法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は近くに幹線道路が走っており、安全確保の為施錠している。転倒、落下危険のある方が若干名おり、家族と相談の上で、センサーマットを使用している。また、利用者の四分の三弱の方が95歳以上と高齢のため、職員は施設内での転倒防止及び所在確認に注力して、安全確保に繋げている。本部の危機管理室から配布される資料を用いて虐待防止、身体拘束の研修会を行うとともに身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催して、拘束に対する意識を高めて日々の支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 声掛け、対応、あらゆる場面に高い意識を持ちケアにあたっています。施設内研修を行い、防止に努めています。また、入浴時等各職員は必ず身体状況を確認しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内にて様々な研修があります。研修に参加する事で職員も含め学ぶ機会があります。また、実際にご利用者が利用されていた事もある為学習をしています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に至るまで、時間をかけご納得されてからの契約をしている。各書類の説明には時間をかけ、不安、疑問を解消しながら説明させていただきます。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設内に意見箱を用意し、ご意見を頂ける状況を確保しています。家族会開催時には、アンケートのご協力を頂いています。 | 家族の面会は、現在、事務所内で人数は3～4名で15分位を目安に行っている。また、今年は5年ぶりに家族会を兼ねた「ブドウ狩り」を行い、7家族が参加された。そうした中、家族と食事に出席したり、法事やお墓参りで家に戻られる方も数名いる。ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行している「さとび便り」でお知らせし、合せて利用者個々の生活の様子を収めた写真に一言を添えて、請求書に同封している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング、引継ぎ、全体会議等職員が意見を述べやすい状況と機会を設けている。また、考え、意見を述べやすい環境作り配慮をし、実際に職員の考えを尊重し提案を受け入れている。 | 月1回、全体会議を行っている。利用者の近況報告、連絡事項、行事報告、各種研修会及び意見交換を行うとともに各ユニット毎に別れて利用者個々のカンファレンスを行っている。また、法人として人事考課制度があり、職員は期初に個々の目標管理シートを作成して、半年毎に自己評価を行い、その後管理者と個人面談を行っている。更に、年1回職員対象にストレスチェックが行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務に集中できるような休息時間の確保をしている。各職員のスキルを目指し、研修への参加、施設内研修においては講師を任せる等本人のやる気を尊重している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外研修は適時行っており、お互いにスキルアップを目指している。各職員の力量は、管理者、各棟のリーダーからの考えも聞きながら、職員に合った仕事の割り振りを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各種研修への参加は、個々の視野を広げるために役立つため積極的に参加を促し、適時勉強会を行っている。現在相互訪問は行っていない。 | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご利用者様からの訴え、要望について傾聴させて頂く姿勢は崩さず、共感させて頂く。対応について気になる点については、気付いた時点で職員と話をするようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスに至るまでに話し合いを繰り返し、ご家族が望む生活をよく理解できるよう努力をしている。ご家族の訴え、意見を傾聴させて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 何が必要か、どのような状況かお一人お一人全く違うので、時間をかけお話を十分にお聞きしながら対応をしている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 法人理念「共に歩む」を常に念頭におきながら、職員視点の介護にならないよう、日々指導をしている。人生の大先輩でもあるご利用者様の尊厳を何よりも重視している。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 大事なご家族をどのような想いで私達職員に託しているのか、各職員がそのお気持ちを察しながら丁寧にご家族様との関わりを大事にしている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで過ごされてきた地域での馴染みの生活に少しでも近づけるよう、知人、友人、ご家族様との良い関係が続くよう、配慮、支援させて頂いています。 | 友人、知人の面会は少なくなっているが、お孫さん等の面会があり、利用者の方が笑顔を浮かべながら面会を楽しまれている。訪問美容師の来訪が2ヶ月に1回あり、会話を楽しみながらカットを行っている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士良い関係が築けるよう、必要に応じてテーブル席の配置替え等、細かい配慮もしながら、常に和やかに過ごして頂ける努力をしている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も、気軽にお声がけや来設して頂けるような関係性を築けるよう努力をし、大事にしている。 | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者様それぞれの時代背景や、願い、想いが違う事を各職員が理解する努力をしている。想いを伝える事が難しいご利用者に対しては、生活歴を把握し、ご家族様にも伺いながら把握に努めている。 | リズム体操や足の上げ下げ等の体操を日課として行っている。利用者の発する言葉や表情より、希望を受け止めるとともに不公平にならない様に心掛けて、日々に支援に取り組んでいる。日々接する中で気付いた事柄については、タブレットのケア記録に纏めて記入し、職員間で情報を共有している。また、申し送り等で確認し合い、利用者の意向に沿える支援に繋げている。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴を知ること、望む生活にもつながる為、情報収集、意見交換をし各職員が把握に努めている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その身体状況、心身状況も変化がある為、その変化に気付けるよう、普段の生活を把握する努力を日々行っている。変化が見られる時には、即時対応をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の望む生活を実現していく為に、関係者と話し合いながら方向性を検討している。気持ちに添った計画を作成している。 | 全職員で利用者の状況把握を心掛け、全体会議で意見を出し合ってモニタリングを行って、家族の意向も加味しながら管理者とケアマネージャーがプランを作成している。入所から3ヶ月間は様子を見て家族と連絡を取りながらモニタリングを繰り返して6ヶ月プランの作成に繋げている。状態に変化が見られる時には適宜、見直しを行っている。また、ケアプランは、本人に説明してサインを頂く様になっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | より良いケアを目指し、ご利用者様の現状を文書化し、訪問看護、訪問歯科、訪問ドクターと情報を共有し、日々の変化に対応し、介護計画の見直しに活かしている。記録に関する研修も行われている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 常に柔軟な対応を取る為に、状況の変化に配慮している。また、ご家族様と細かい連絡をとるように努力をし、関係を深め連携をとっている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括、民生委員、地域住民様からの情報交換を行い、介護相談会においてはご利用者様からの会話の場を設けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時には、協力医療機関の説明を、懇切丁寧に、希望に添った受診、往診支援を行っている。長年の主治医との関りは高齢者にとって非常に重要である。主治医との連携は最も重要視している。 | 利用契約時に本人の希望をお聞きし、ホームとしての取り組みについて説明している。現在は入所前からのかかりつけ医の受診が数名、若干名が往診を受けている。他の利用者はホーム協力医の月2回の往診を受けている。また、毎週水曜日に訪問看護師が来訪し、利用者の健康管理に合わせ医師との連携を図っている。歯科は、毎週月曜日に協力歯科の医師と歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアの指導をして頂いている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 各ご利用者様の現状を文書化し、週1回の訪問看護の際には活用をしている。状況の変化はその都度確認し記録に残している。必要時には、医師にも相談し24時間対応が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された時には、入院訪問を行いご本人ご家族様とも連絡をとりながら意向を確認します。法人系列の医療機関、他医療機関の関係者とは密に連絡を取りながら、退院時カンファレンスを行います。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に終末期についての意向の確認を致します。必要時期、早い段階から意思確認を行い、医療チームが組まれているので、納得されるまで丁寧に説明し、支援に取り組んでいます。ご本人、ご家族様も意向に変化がある時はその時点での意向を最優先いたします。 | 重度化、終末期を迎えた際の指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホームで話し合いの場を設けて家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に若干名の看取りを行った。家族は居室で自由に面会して頂き、最期の時を共に過ごされた。なお、看取り後は全職員で振り返りの時を設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年2回の総合防災訓練においてAEDを使用した講習、実践はもとより、委員会による自設内研修を行います。緊急時の連絡体制も整備され、有事の際には個人判断せず必ず助けを呼ぶことを徹底しています。他6回の訓練も行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練において本番さながらの避難訓練をします。法人全体で取り組み、職員個々が自覚をしています。また、塩尻市より最優秀事業所として、表彰されました。自然災害、感染症(BGP)にて事業所独自の計画があります。 | 年2回消防署へ届け出の上で、防災訓練を行っている。6月には火災を想定して、消火器を使っての初期消火訓練、利用者全員玄関まで移動しての避難誘導訓練、通報訓練、人形を用いて「AED」の使用訓練を実施した。11月には通報訓練、消火訓練、避難誘導訓練を行っている。その他緊急連絡網の確認訓練等を定期的に行い職員の防災意識の向上に努めている。「水」「お米」「レトルト食品」「缶詰」等を1週間分備蓄しており、1年毎に消費期限を確認して入れ替えを行っている。 | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に、人生の大先輩でもあるご利用者様に対し、敬う心を忘れません。全職員声掛け、挨拶は特に気を付けて取り組んでいます。常に研修を行っております。 | 人生の先輩である利用者に対し尊敬の気持ちを持って接する様に心掛けている。声掛けには特に気配りをし語尾に「？」を付け「どうされましたか？」「何々しませんか？」と優しく声掛けをしている。また、トイレ誘導の際には耳元でそっとお誘いしている。呼び方は基本的には苗字を「さん」付けてお呼びし、居室への入室の際には「ノック3回」と「失礼します」の声掛けを行っている。また、法人からの資料を使ってプライバシー確保、接遇研修を行い、日々の支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 中々、ご自分の想いや、願いを表現できない方も増えています。情報シート等のツールも使用したり、表情や生活歴等からも探っていきます。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人1人のペースを最優先にし、気持ちを伺いながら、職員が見守ります。体操や、レク等団体で行う時には、無理強いせずにお誘いします。ここが心地よい自分の居場所と想って頂ける事が目標でもあります。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ただあるものを着るのではなく、自分で選べる方には選んで頂き、そうでない方には、職員がコーディネートします。身なりを整え鏡を見て頂くよう支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の野菜が採れる時には一緒に収穫し、食卓にだします。ジャガイモや玉ねぎの皮を剥く等、出来る事を楽しみながらやって頂きます。また、お片付けやテーブルを拭く等も楽しんで頂いています。 | 高齢の利用者が多いが、ほぼ全員の方が自力で食事が取れる。献立は冷蔵庫の中の食材を見ながら出来立ての物を温かいうちに提供している。また、毎月の行事や誕生日の際には利用者の希望もお聞きして、希望に合わせた料理を提供している。また、正月は「おせち料理」、お雛様には「ちらし寿司」、お彼岸には「おはぎ」を味わい、クリスマスには両ユニット合同「鍋パーティー」を楽しんでいる。更に、時折近くのファミリーレストランで外食も楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 午前午後のお茶、食事での水分量を一日毎で把握。食形態は個別対応しており、摂取、飲水しやすい状況での提供。必要時、トロミやゼリー等で提供。医師、看護師、歯科ドクターからの連携あり。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個別対応しており、毎食後口腔ケアを必ず行っています。訪問歯科ドクターからは、毎週各利用者様の状況の報告を受けています。いかに清潔保持に努めるかが、肺炎防止、食量摂取維持につながります。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々にかかなりの違いがあります。尿意、便意ある方はその状況での対応や、排尿パターンを調べてその方のリズムにあった声掛け、全介助の方は定時交換の他に、表情や様子から適時行っています。 | 殆どの利用者が一部介助の状況であるが、トイレでの排泄を心掛けている。職員は利用者個々のパターンを把握に努め、起床時、食事前後、就寝前の定時の声掛けの他にもタブレット中の排泄記録も参考にして、個々の様子を見ながら早めにお誘いしている。排便については、お茶を中心に1日1000cc～1200ccの水分摂取を進めて、排便促進に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 違いが大きくなりますが、体操をしたり一緒に歩いたり、楽しく体を動かせる努力をしています。排便コントロールは、医師確認の下、体に合ったコントロールをしています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は、週2回以上を予定していますが、必ずバイタルチェックを行い、その日の体調にも合わせます。気分の乗らない日には、無理強いせず、入浴日をずらす等対応しています。 | 全利用者介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行い希望があれば3回の入浴も行っている。希望の入浴剤を使い「さとし温泉」を楽しんでいる。また、入浴後には「スポーツドリンク」等で水分を摂取している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休みたい時に自由に休んで頂いています。居室で、ホールで、テーブルでと様々です。夜は皆様居室にて休まれますが、夜間ホールに出て来られたご利用者様には、お気持ちをお聞きます。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は徹底しています。また、誤薬を防止する為、内服までにトリプルチェックを必ず行います。処方箋ファイルにて、目的、副作用等随時確認をし、変化がある時、医師、看護師に連絡します。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る範囲で、生活の中でやって来られた事を役割として分担してもらいます。職員も感謝の言葉を忘れません。レク、行事、クッキー、たこ焼き、餃子作り等、楽しめる事はたくさんあり、気分転換に役立っています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 花見、ぶどう狩り、紅葉狩り、お散歩、随所でお出かけをしておりますが、現在は外出支援が中々出来ておりません。歩行にて、隣の日本庭園を見に行ったり、中庭にて日光浴、お茶会を開いています。今期より、ぶどう狩りを再開しました。 | 外出時は、車いすを使用の方が三分の二、歩行器を使用の方が三分の一の状況である。中庭での外気浴や隣接するデイサービスの庭の散歩等を楽しんでいる。コロナ禍も落ち着きつつあり、5年ぶりに家族会を兼ねてブドウ狩りを行った。また、空港近くの「バラ公園」にドライブを兼ねて見学に出掛け、帰りにファミリーレストランで食事を楽しんだ。今後は、コロナの感染状況を見ながら外出レクリエーションを様に増やして行きたいと思っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ここでのお金の管理はしておりませんが、ご利用者様によっては手元にて最小限の金額を管理されています。手元にお金がある事の大切さや意味は職員も良く分かっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様の意向も確認し、ご本人様の要望に添いながら、対応しています。電話を掛けて頂いたり、こちらから家族に電話をかけたり、手紙のやり取りも自由にして頂いています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じて頂けるよう、花や、タペストリー等の飾り付けをし、温度・湿度調整は欠かさず行い、過ごしやすい環境に整えています。新聞、雑誌も揃え思い思いに過ごせる空間作りをしています。施設内の様子は、発行新聞や、日々のお写真を郵送しております。 | 外気浴を楽しむ広い中庭を囲む様に平屋作りの各ユニットが配置されている。広々としたホールは陽当たりが良く、天井も高く開放感がある。3カ所の食事テーブルは利用者の体格に合わせて高さが調整でき、食事がしやすい様に工夫されている。廊下には日々の活動を収めた写真や利用者の作品が飾られている。また、施設内は季節の飾り付けが行われている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様の状況に応じて、椅子の配置替えや、食事席にも配慮しています。気の合った方同士過ごせるような、テーブルやソファへの声掛けもしています。また、ご利用者様同士交流が持てるように楽しいレクを常に考えています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 長年馴染んできた家財や配置を心がけています。ですが、状況によりそれが危険リスクの高い要因になる事もあるので、その時には、ご本人、家族様と話しながら対応しています。 | 居室は、洗面台と押入れが設けられ暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上で、家で使っていたハンガーラック、イス、時計等が自由に持ち込まれている。家族の写真や好きな人形、誕生日のお祝いカード等に囲まれて思い思いの生活を送っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 誤食、転倒あらゆる危険リスクを回避する為、内部の清掃を強化し、危険物の排除に気を配ります。自立歩行、補助用具使用の移動には、足元の確保は必須です。 | | |